

令和 7 年度使用中学校教科用図書
に関する調査報告書

教科名 理 科

(様式1)

教科用図書調査に関する報告書

教科	理科
----	----

発行者 略 称	発行者 番 号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
東 書	2	理科 002-72 002-82 002-92	新編 新しい科学 1 新編 新しい科学 2 新編 新しい科学 3	・単元の冒頭には日常生活で生まれた疑問と関連づけて問題提起をしているイラストが挿入されており、学習意欲を高める工夫がなされている。 ・教科書の下部に探究学習における進度が、明記されており、授業者が探究の流れを意識しやすいつくりがある。 ・？マークの「問い」に対して、自身の考えを書く項目が設定されており、自分の考えをアウトプットする力や要約する力も高めやすい。 ・言語活動の定着を効果的に進めやすい。 ・単元ごとに「じっくり探究」があり、流れに沿って探究活動を行うことができる。 ・二次元コードから他教科の教科書にリンクが設定されており、複数の教科に横断している。 ・理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高めることができる内容となっている。 ・兵庫県に関する記述が多い。特にコウノトリ、水素発電では身近な内容が掲載されており、わかりやすい。 ・約9万年前の阿蘇山噴火による火山灰の広がりについて掲載されており、興味をひきやすい。 ・地層の成り立ちはわかりにくく、図もやや小さい。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
大日本	4	理科 702 802 902	理科の世界 1 理科の世界 2 理科の世界 3	・観察や実験で、操作のポイントを「コツ」として明示している。 ・単元の最後に探究活動を掲示し、生徒自身で探究を進められるようにしている。 ・二次元コードのリンクがやや少ない。 ・発展的な内容のページ数がやや少ないため、生徒の興味・関心をひき出し、主体的で深い学びにつなげにくい。 ・教科書の横幅が短いため、天体などの内容によっては、写真や図などが小さく、わかりにくいことである。 ・実験のページがやや小さい。見通しをもって実験を行い、その結果を分析し解釈する力に結び付けにくい。また、科学的に探究する力にも結び付けにくい。 ・探究学習の流れがややわかりづらく、探究活動につなげにくい。 ・活火山マップ（1年 P201）や成層火山の図（1年 P208）はわかりやすい。 ・巻頭で学習の進め方や教科書の使い方などを示している。単元配列は、小学校との関連を重視した配置となっており、観察や実験をしやすい時期や、学年による理科室使用の重なりなどに配慮されている。 ・重要語句や式は太字のゴシック体を使用している。重要語句はふりがなを付け、式は単位を付けて表記している。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
学 図	11	理科 011-72 011-82 011-92	中学校 科学 1 中学校 科学 2 中学校 科学 3	・全ての実験が探究としてまとめられており、気づき→課題→仮説→計画→方法→結果→考察まで、探究学習の方法を習得できるつくりになっている。また、簡潔な実験ページに対し理路整然と知識の活用方法や様々な特集ページが組み立てられており、基礎から応用まで網羅している。 ・単元の最初に、Can-Do-List が設定されており、目標意識を持った学習に取り組めるようになっている。 ・単元配列は、年間指導計画に沿って系統的に配列している。 ・巻末の補充資料では、安全で適切な活動になるように、事故防止に十分留意した内容である。 ・実物の写真を多く使っている印象。パステルカラー・淡い配色を中心に行っている。 ・実験等の説明に写真を使ってわかりやすくしてあるが、方法と結果が同じページにあるため、実験をする前に結果がわかってしまい、考察・思考活動等がしにくい。 ・ページに二次元コードが記載されており、教科書全ページを「ミライ教科書」として使用できる。 ・脊椎動物のまとめ方がわかりにくい。 ・巻末の補充資料では、安全で適切な活動になるように、事故防止に十分留意した内容である。 ・要点集は、全体的に内容がやや少ない。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
教 出	17	理科 017-72 017-82 017-92	自然の探究 中学理科 1 自然の探究 中学理科 2 自然の探究 中学理科 3	・イラストキャラクターの発言により、仮説や計画について考え主体的、対話的に考えることができるように工夫されている。 ・疑問から実験や観察、結論までフローチャート形式でわかりやすい。 ・ウェブサイトの「まなびリンク」で情報を活用することができる。 ・写真や図を効果的に使用している。実験や結果のまとめがわかりやすい。 ・重要語句が太字＋色で強調されており、ユニバーサルデザインに配慮している。 ・各単元のまとめのページが、見やすい。 ・各単元の最初に、「学んでいくこと」が示され、見通しを持って学習に取り組むことができる。 ・単元配列は、年間指導計画に沿って系統的に配列している。 ・地層⇒火山⇒地震⇒地質年代の順となっており、生徒にとってわかりやすい。 ・地層、堆積岩の内容が詳しい。 ・深い学びにつなげる工夫が、やや物足りない。 ・教科書の文字のポイントが大きく、ユニバーサルデザインに配慮した設計となっている。しかし、3年にとっては大きすぎる文字はかえって、やや見づらいのではないか。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
啓林館	61	理科 061-72 061-82 061-92	未来へひろがるサイエンス1 未来へひろがるサイエンス2 未来へひろがるサイエンス3	・巻頭の探究ガイダンスや、探Q実験、デジタル探Qシートやとじ込みのシートなどを用いて、誰もが探究的に学べるよう工夫がされている。 ・「学ぶ前にトライ」「学んだ後にリトライ」を行うことにより、自身の意識の変容を実感することができる。 ・二次元コードからのデジタルコンテンツが充実している。特に、Action やふり返しシートにより、活用の場面を想定し深い学びに向かう学習活動が展開しやすい。 ・実験動画や解説動画が充実しており、自主学習を想定したつくりである。 ・CBT 形式の問題コンテンツを導入しており、「動画でチャレンジ」では情報活用能力を育むことができる。 ・科学的な根拠に基づき、自然環境の保全や科学技術の利用について各領域を相互に関連付けて考えることができる内容になっている。3年の内容では、発展的な内容が充実しており読み応えがある。 ・ヒマラヤ山脈の写真を導入に使用しており、内容をふくらませやすい。 ・防災に関しての記載が多く、兵庫県ならではの、防災減災についての総合的な学習と絡めやすいまとめ方である。 ・SDGs など、今日的課題が取り上げられ、これからの地球人としての自覚が生まれる。

(様式2)

教科用図書調査に関する報告書

理科

観点別評価

「◎」 優れている

「○」 標準的

「△」 やや劣る

選定の観点	選定の視点		東書	大日本	学図	教出	啓林館
学習指導要領との関連	1	学習指導要領に示されている理科の目標達成に結び付く内容になっているか。	○	○	○	○	○
	2	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫がされているか。	◎	○	○	○	◎
	3	「知識及び技能」の習得と「思考力・判断力・表現力等」の育成をバランスよく図るための工夫がされているか。	○	○	○	○	○
	4	言語活動の定着を図るための配慮がなされているか。	◎	○	○	○	○
	5	学習への興味・関心を高めるとともに、学びを深めるために、デジタルコンテンツを適切に活用することができる配慮がなされているか。	○	△	○	○	◎
	6	SDGs など、今日的課題が取り上げられ、生徒が興味・関心を持ち、主体的に学ぶとともに発展的な学習も行うことができる工夫がされているか。	○	○	○	○	◎
内容	1	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するなどの科学的に探究する学習が重視されているか。	◎	○	○	○	○
	2	日常生活や他教科との関連を図り、理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高めることができる内容となっているか。	◎	○	○	○	○
	3	自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究することができる内容となっているか。	○	○	○	○	○
	4	身の回りの事象から地球規模の環境までを視野に入れ、科学的な根拠に基づき、自然環境の保全や科学技術の利用について各領域を相互に関連付けて考えることができる内容となっているか。	○	○	○	○	◎
	5	観察、実験、野外観察などの体験的な学習活動を充実させる工夫がなされているか。	○	○	○	○	○
	6	観察、実験、野外観察などが安全で適切な活動になるように、事故防止に十分留意した内容となっているか。	○	○	○	○	○
構成・分量	1	内容の量と学習時間が適切に配当されているか。	○	○	○	○	○
	2	生徒の発達段階に即し、系統的、発展的に構成されているか。	○	○	○	○	○
表記・表現	1	表記や表現について、文書や挿絵、写真等の使用が適切であるか。	○	△	○	○	○
	2	文字の大きさ、字間、行間などは適切であるか。	○	○	○	○	○
	3	ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、色の使用、紙面の構成などについて、配慮されているか。	○	△	○	◎	○